



緩和ケアを受けながら

～治療も、仕事も、生活も～

緩和ケアとは、がんなどの疾病になった時に患者さんとご家族が、治療も仕事も生活も自分らしく両立することを支えるケアです。あなた自身や大切な人のため、緩和ケアについて正しく知りましょう。



品田 日本では、3人に1人が就労可能な年齢でがんになるというデータが出ています。患者さんはがんの告知を受けてから「がんは治るのだろうか？」「仕事は続けられるのだろうか？」というところから、誤って離職や退職、あるいは自営業の方には廃業を決めてしまわれる方も多くいらっしゃいます。病気のことは病院や医師・看護師に相談できますが、仕事などの病以外のことを誰に相談すればいいのか、それがわからない方がたくさんいるのではないかと思います。

大橋 私は、一昨年の6月に大量の消化管出血を起こし、ジストという10万人に1〜2人しかならない非常に珍しい胃の悪性腫瘍が判明しました。現在抗がん剤治療を続けながら、緩和ケアの医師を続けています。医師という職業柄、悪性であるとか不安でしたが、手術ができて生きながらえることができました。つまり人生復帰ができたわけですが、その時点で社

がんと診断された後、具体的な緩和ケアで何が出来るのか？

品田 日本では、3人に1人が就労可能な年齢でがんになるというデータが出ています。患者さんはがんの告知を受けてから「がんは治るのだろうか？」「仕事は続けられるのだろうか？」というところから、誤って離職や退職、あるいは自営業の方には廃業を決めてしまわれる方も多くいらっしゃいます。病気のことは病院や医師・看護師に相談できますが、仕事などの病以外のことを誰に相談すればいいのか、それがわからない方がたくさんいるのではないかと思います。

品田 仕事とは労働という意味だけではなく、やりがいや生きがいがあるからこそ社会の中で自分の存在価値や自己実現を図れていると、ソーシャルワーカーは考えています。仕事は病気がよって奪われてしまふ、あるいは一度止めなければならぬという状況で、患者さんが病と闘う中で冷静に受け止めることは、なかなか難しいことだと思います。特にがんと告知されたら、治療が始まるまでの間は次から次へとやっていくのがやっとならないです。企業に勤められていて制度や保証がある方ならまだしも、自営業などの方は仕事をやりたくても体力的にできない場合もあり、発症と同時に生活が非常に厳しくなる方も多くいます。上村 働き盛りの世代のがんは、治療と仕事の両立は非常に切実な問題です。高額の抗がん剤治療や手術費・入院費などの治療費の問題、生きるか死ぬかという状況の中で、生活や治療のためには仕事をやめられないジレンマがあると思います。

上村 働き盛りの世代のがんは、治療と仕事の両立は非常に切実な問題です。高額の抗がん剤治療や手術費・入院費などの治療費の問題、生きるか死ぬかという状況の中で、生活や治療のためには仕事をやめられないジレンマがあると思います。

上村 働き盛りの世代のがんは、治療と仕事の両立は非常に切実な問題です。高額の抗がん剤治療や手術費・入院費などの治療費の問題、生きるか死ぬかという状況の中で、生活や治療のためには仕事をやめられないジレンマがあると思います。

吉田 健康診断で再検査が出た時、がんが診断された時、あるいはがんが再発した時など、節目目で患者さんはさまざまな気持ちや体験されていると思います。「まさか自分が」という信じられない気持ちや「何も悪いことしていないのに」といったやり場のない怒り、「がんばっても仕方ない」という投げやりな気持ち、今後のことを思う不安な気持ちなど、気持ちの辛さはがんになった方は多かれ少なかれ経験されています。

気持のつらさ
・気持ちが落ち込んだり、不安で食事が喉を通らない、眠れないなどの症状が続くことがある
・気持ちを楽にするには、生活を守り、自分らしさを保つことにつながる
・気持ちを楽にするには、緩和ケアチームのこのころのケアの専門家が、担当医や看護師と協力してサポート
第二部 ディスカッション
緩和ケアを受けながら ～治療も、仕事も、生活も～

上村 働く世代のがんは、仕事とどう向き合うかが大きな問題です。千差万別ですが、とにかく治療治療となってしまうと仕事はそっくり冷たい判断がしづらくなってしまいます。がんになっても仕事と向き合わなければならぬ若い世代に對して、がん治療と仕事の問題を解決するための情報をがん相談支援センターなどで伝え続けていくことがとても重要であると、緩和ケア医療者としても感じています。

大橋 実際に私の場合は1カプセル7500円の薬を2カプセル飲んでいて、1日1万5000円かかります。保険を使っても1カ月10万円を超えてきます。生活費、子供の大学の教育費に加え、治療費がかかりますから、お金は切実な問題です。尾阪 周りが見えなくなったたり、この先どうなるんだろうという不安感の中で、実質的なお金の問題がのしかかってくるのはつらいことですね。

大橋 実際にお金の話が出ましたが、私の場合は1カプセル7500円の薬を2カプセル飲んでいて、1日1万5000円かかります。保険を使っても1カ月10万円を超えてきます。生活費、子供の大学の教育費に加え、治療費がかかりますから、お金は切実な問題です。

大橋 実際にお金の話が出ましたが、私の場合は1カプセル7500円の薬を2カプセル飲んでいて、1日1万5000円かかります。保険を使っても1カ月10万円を超えてきます。生活費、子供の大学の教育費に加え、治療費がかかりますから、お金は切実な問題です。

治療を納得してやっている」とわかってはいるのですが、心がつかない感じがした。主治医が言った「私たち医師は、患者さんがどういう状態になつたとしても、できることがあると信じて治療をしていくので頑張りましょう」という言葉を覚えていきます。その言葉で「自分は見捨てられていないんだ」と心強く感じましたし、自分1人ではないという感覚になれたことで辛い治療に耐えられたんだと思います。

